

ひょうご

出会い広がる 3ページ

西宮名塩ニュータウン



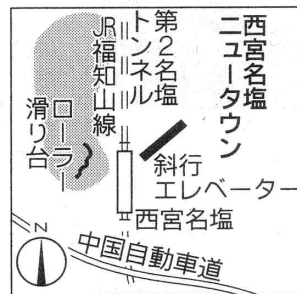
写真・文 山田哲也

2

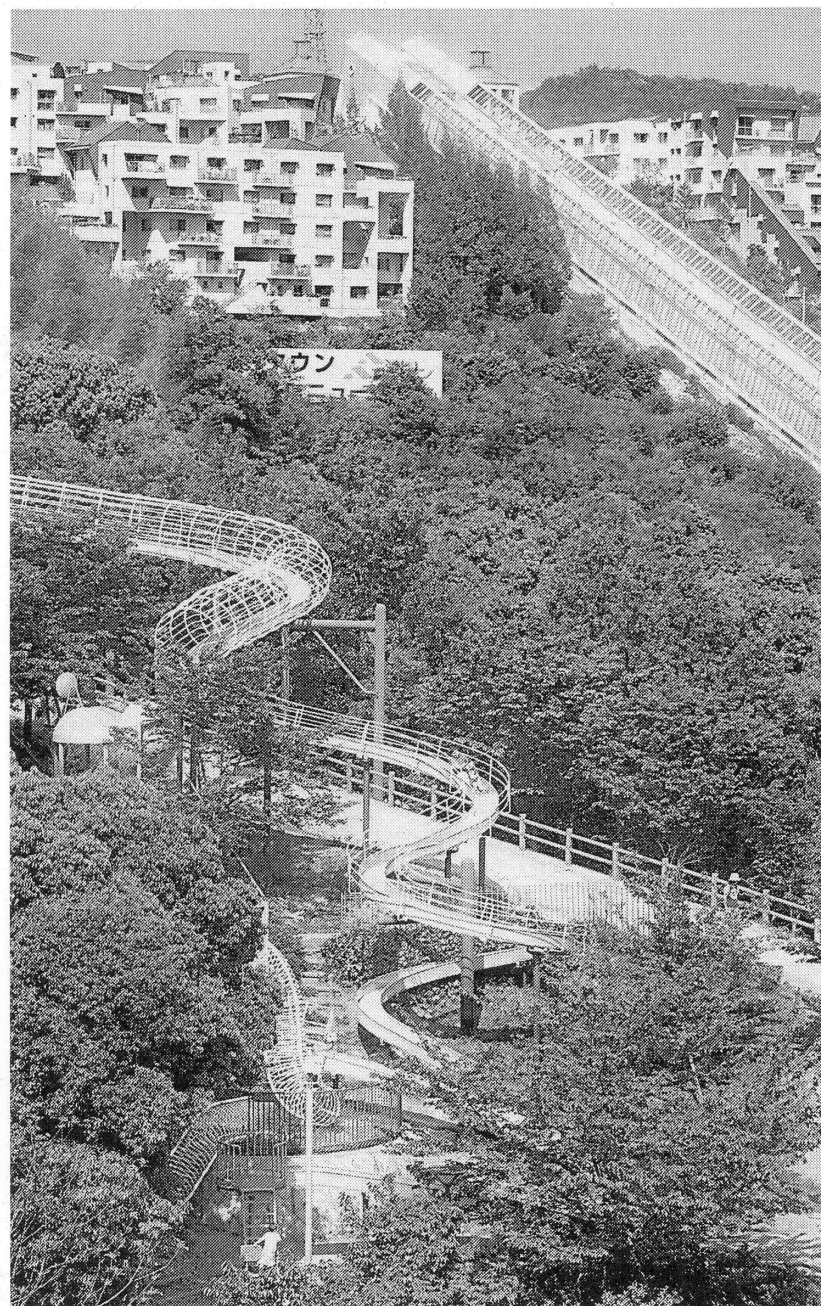
シンボルは斜行エレベーター

和紙の町として知られる西宮市が増えた。名塩地区は、交通の便が良くなったが、86年にJR福知山線西宮名塩駅が開業。住宅都市整備公団(現・都市再生機構)が78年に西宮名塩ニュータウンの開発を始めた。しかし、ニュータウンを構成する東山台1〜5丁目の人口(3月、91年に街びらきすると、人口月末現在)は2003年、604

4人と伸び悩んでいる。白い家が張り付く山の斜面に伸びる施設は一見、エスカレーターのようなが、実は「斜行エレベーター」。3階の高台まで全長約146㍎あり、高低差約58㍎を約2



分で結ぶ。分速90㍎は「日本一の速さ」とされ、街のシンボルになっている。開発面積24.3万平方㍎のうち、公園や緑地が26%を占め、公団の一般的な開発の5%程度を大きく上回っており、自然豊か。中でも、塩瀬中央公園は22万平方㍎あり、阪神甲子園球場の5・5倍で、体育館やテニスコート、円形野外ステージを備え、大阪市も一望できる。斜行エレベーターを2階で降り西に歩くと、冒険広場に出る。ここには全長80㍎のローラー滑り台があり、子どもだけでなく、大人も楽しめるスポットになっている。(滑り台の利用時間は午前10時〜午後4時。悪天候時は利用不可)



緑に囲まれた西宮名塩ニュータウン。中央がローラー滑り台、右上が斜行エレベーター